

【新春特集】日本の将来を語る

次世代のリーダーを育てる



ジャイアンツアカデミー・ヘッドコーチ

倉俣 徹



くらまた とおる

1962年生まれ。東京学芸大学卒業後、群馬県にて定時制高校の教諭となる。野球学士の間、東京学芸大学院にて教育学修士号を取得。米国スポーツアカデミーで一年間留学する。現在、平日はジャーナル編集者として活動し、週末は中学生硬式野球チームの監督として活動している。

私は、教員養成大学を出て、一度は高校教師になつたものの、「指導者として野球で飯が食いたい」という思いを断ち切れず、四年の勤務を経て退職。その後、米国の大学院に三年間留学。現在は巨人軍というプロ野球球団で二十年目を迎える。その間、通訳、トレーニングコーチ等の現場勤務を経て、プロ野球界初の野球スクール「ジャイアンツアカデミー」を立ち上げ、九年目を迎えようとしている。業務内容は、幼児から小学生までの指導プログラムの作成、実際の野球指導、及び担当コーチの指導への助言である。

中学三年の時、「学校の先生になつて野球の指導者になろう!」と志を立てたことが、五〇歳の

今、「ジャイアンツアカデミー」という「学校」で本当に指導者になれているだけでなく、実際に生計を立て、家族(子ども五人)を養えている。こ

れは、自分でも不思議といふほかない。さらに、

地元で中学生硬式野球チームを指導。二〇〇八年からは四年連続で

中学生の世界大会に

コーチングスタッフとして参加。世界の

十五歳の野球レベルを肌で感じ、日本の

中学生にも還元できていると感じる。

私が野球始めた一九六〇年代は、高度経済成長の真っ盛り。両親も仕事に追われ、子どもは放つたらかし。学校から帰宅後、カバンを置いたら小学校にとんぼ返り。野球をするしかなかつた時代。野球の指導理論など皆無。ひたすら日没まで野球を続け、お腹が減つたら帰るという時代。また、夕食時には巨人戦が毎日のようになっていたのが当たり前という時代だった。

私たちの同級生は全国に二百万人以上。現在六十歳を迎える団塊世代の方たちは三百万人ほどの頃は、「野球は頭の悪い奴がするスポーツ」という風潮がまかり通っていたが、今や野球をやると「頭がよくなる!」という時代。野球に関心のない保護者や子どもを巻き込むには打つてつけの諂い文句となつていて。

さらに、野球で一番必要な能力は、神経と筋肉の協調能力。目で見たことを瞬時に頭で判断し、手足に伝え、器用に体を動かせるか?が最大の特徴。バッティングでは、上手にタイミングを取り、バットの芯にボールを当てヒットを打つ。守備では、正確に捕球して一塁に送球、アウトを取り、などである。また、戦術では、バント(犠打)をして自分はアウトになるが走者を二塁に進め、仲間と連係して得点を取る。守備では、カットプレーやダブルプレーなど連係してアウトを取り、バットの芯にボールを当てヒットを打つ。などが求められる。まさに、個人の能力と共にチームワークが求められるのである。

「日本の将来」を考える時、世界でリーダー的な役割を果たし続けることが非常に重要なと思う。リーダーには、先を読む力、率先して動く行動力、仲間と協力し成し遂げる力、等が求められる。野球には、健全育成と称して、体を鍛え、頭脳を明確にし、チームワークを育み、ルールに則ってプレーすることが求められている。まさしく、現代社会を生き抜くだけでなく、リーダーになるための素養がぎっしり詰まっているのである。

一方、現在。子どもたちの同級生は各学年とも百万人強。典型的な少子化に加えて、趣味の多様化と受験熱の高騰により、小学校では一クラス三十名のうち、野球チームに入っている子は二~三人。こういう状況下では、一九六〇~一九七〇年代のような「弱肉強食」は通用せず、「すべての子どもを大切に育てる」手法が必要となる。そのための指導法としては、①イメージを持たせるために「ボール遊び」から入り、野球好きにさせれる、②「できた!」と感動した瞬間に「誉め」、成功体験を強化させる、③適切な課題を与え、成功体験を増やすことで、自信を持たせる。

自分に自信が持てるようになると、④我慢や努力を続ける忍耐力を身につけられるようになる。そして、⑤少し難しい課題に挑戦できるような頑張り屋さんになる。これは、運動経験

運動学的には、幼稚から小学生にかけて、基礎的運動パターンと言われる①姿勢(立つ、転がる、バランスをとる等)、②移動(走る、跳ぶ、スキップする等)、③操作(打つ・投げる・蹴る等)の三つに分類される八十種類以上の運動パターンを習得させたい。これが、野球をやっているだけで、ほとんど獲得可能なのである。

また、手を使うことは、「第二の脳」と言われるほど脳の活性化に重要。小さいボールを投げたり捕つたり、野球型の遊びをすることは、裁縫、書道、そろばん、ピアノ、料理等で手先を器用にするのに匹敵するほど、脳を刺激してくれる。私は、「野球をやると頭がよくなる!」と個人的に提唱しているほどである。私が子ども